

阿蘇の大噴火にうまれ、近代化に活用されて。

沈堕の滝を形成している岩石は、阿蘇山の9万年前の大噴火による火碎流によつてもたらされたものです。阿蘇溶結凝灰岩と呼ばれる火碎流が冷えて固まつた岩であることから、垂直方向に無数のひび割れが入つており、このような景観を生み出すことになりました。縦方向に岩が崩れることで垂直の崖を形成したのです。これは、豊後大野ジオパークにおける特徴的な景観の一つとなっています。

1 大野川通船と魚道跡

江戸時代の終わりから明治時代にかけて、大野川には通船がありました。しかし、この滝だけは船は越えることができず、人や荷はここで積み替えていました。同じようにアユなどの回遊魚もこの滝を越えることができましたが、大正2年に滝の上下をトンネル魚道、魚架でつなぎ、アユをさかのぼらせる成功しました。

黄色い線の部分が魚道だったと考えられる



2 沈堕発電所跡

この沈堕の滝では、滝の落差を利用して、発電が行われています。明治42年(1909年)、滝の上に堰を作り、発電をはじめました。電気は大分、別府間の路面電車に送られ、日本の近代化に役立てられました。その後、堰の高さはさらに上げられ、安定した発電に利用されましたが、一方で、水

流により滝が崩落することを防ぐため落水を止めたため、滝の景観は損なわれてしまいました。

※現在の発電所は2kmほど下流に移されています。



旧発電所操業時

修景工事

地域の方々はこの滝の復活を切に願っていました。

ただの岩壁化していた滝は、平成8年、ついに復活。九州電力の手により崖がこれ以上崩落しないよう大きなり工事をし、さらに雪舟の描いた鎮田瀑布図を参考に「垂直分かれ十三条をなす」となるよう修景工事を行ったのです。



落水のない頃の沈堕の滝

堰堤

雄滝

大野川

発電用水放水口

足元
注意

自然にできた岩を活用したのはいいけど、一時は滝ではなくなってたんだって。

でも、それをまた人の手によって滝に戻されたんだね。

カメラポイント
表紙の写真はここから撮影したものです。

カメラポイント
沈堕発電所跡と雄滝を一望できます。

駐車場

トイレ

大型バス駐車場

平井川

巨匠が描いた名瀑



雪舟画「鎮田瀑布図」(複製) 豊後大野市大野支所所蔵

ポケットパーク

雌滝

約600年前に描かれたという水墨画とどこが違うのかな?